

令和 2 年 1 1 月
県庁舎跡地活用室

第 1 回サポーターズミーティングの開催結果について

- 1 . 日時 : 令和 2 年 10 月 22 日 (木) 19 時 00 分 ~ 20 時 30 分
- 2 . 場所 : 県庁 1 階大会議室 C
- 3 . 議題 :
 県庁舎跡地活用サポーターズミーティングについて
 県庁舎跡地整備基本構想の検討状況について
- 4 . 出席者 :

名称	所属等
荒木 ゆい	江戸町自治会青年部 部長
岩本 諭	斜面地・空き家活用団体つくる 代表
江口 忠宏	DEJIMA BASE 代表
斉藤 秀男	地域おこし協力隊 (長崎市琴海地区)
森 恭平	江戸町自治会青年部 役員
安元 哲男	アートケイク代表
山田 早織	株式会社イーズワークス
吉持 和美	合同会社 wakuwa プランニング プロジェクトコンダクター
渡辺 敦子	合同会社 wakuwa プランニング プロジェクトコンダクター
長崎市	長崎市土木部、文化観光部

5. 主な意見等

(1) サポートズミーティングについて

新しい広場などの整備を検討するにあたり、こういう会があるということはずごくいいと思う。このように意見交換しながら、最終的に運営などに携わる人が出てきてほしいと思う。

今回のように、整備前から意見交換する機会がありつつ、社会実験をやれるというのは貴重だと思う。後は、意見をいいながら、社会実験でアイデアを試しながら、一歩踏み込んで、まちづくり会社を作って運営していくことなどにつながっていけばいいと思う。

(2) 基本構想の検討状況について

検討報告書にある基本理念については、皆さん理解していると思う。これをいろいろな角度から議論して、それぞれの立場や切り口で意見を出し合い、さらに理解を深めながら進めていけばよいと思う。

基本理念の趣旨を踏まえ、県庁舎跡地でしかできないこと、あそこにもどのような賑わいがあるべきか、具体的なイメージを議論・共有したうえで進めていく必要があると思う。

例えば、ケータリングカーを出してご飯食べるというのはどこでもできるので、何故ここにケータリングカーを呼んでこなければいけないのかというところに、「歴史を活かす」や「新たな価値の創造」又は「多分野の交流」など、基本構想のコンセプトに絡めて作りこんでいくことが大切。

ストーリーがあるものもいいと思う。同じコーヒーを売るにしてもここならストーリーができる。歴史をストーリー付けすることで、歴史に興味がない人も興味を湧いたりするのではないか。

長崎のデメリットと考えられる部分をプラスに考えるような思考がいると思う。土地が少なかったり坂が多いということに対して、跡地ではコンパクトな活用であったり、ミニマムでもいろんな人が活用するような場所にするといった、きちんとしたコンセプトがあればいいと思う。

新たに活動してくれる人を探すことが必要。これをサポートするのがサポートズミーティングの人なのか、その中から誰かを見つけて行くのか検討が必要。また、相談に乗ってくれる人の存在や、物品貸し出しなどのサポートも必要ではないか。

コンセプト(活用イメージ)をしっかり持つことが大事だと思う。そ

のコンセプトが見えてくると、中心で関わる人が見えてくる。コンセプトがない中でそういう人を生み出しても、普通の公園になってしまうので、遠回りかもしれないが、コンセプトを考えていく機会を先ず設けるべきと思う。

(3) 今後の進め方について

コンセプト(活用イメージ)も机上では作れないので、試しながらやるのが大事。もう1回くらいは全体で現場を見に行ったり、その後意見交換したりする方がいいと思う。

意見交換で集まるのであれば3,4人くらいにした方がいい。活用のテーマやコンセプトなどをグループで話して、山ほど挙げてもらって、その中で明らかに違うのは皆で話して外していく。基本理念に沿っているものだけを共有して、議論の中で絞っていけばいい。そういう動きをしないと、堅苦しい会議になる気がするので、1回みんなで現場見たあとに少人数で話をして、最後に皆で集まって結果をまとめるというようなことを次回やったらいいと思う。

いろいろ案を出していく前に、ある程度、基本理念にあるこの地の歴史性とか、バックボーンみたいなところは共有していた方がいいと思う。

どうしてもそれぞれの分野の考えに固執してしまうので、自分達の頭にはないものを共有するみたいなことが大事。一見違うように見えるものも別から見ると繋がることもあると思うし、そういうことを共有したうえで、こういうことはできそうだからやってみるとか、もうちょっとこういう人を入れたらおもしろそうだといい議論をしていくといいと思う。そうすることで、例えば、仮囲いの活用も、単に発掘調査の結果を示すということにとどまらず、さらに魅力を持たせるような活用のあり方などに繋がると思う。

みんなで一つのコンセプト(活用イメージ)をつくる必要はないと思う。立場も熱量も違うので、それぞれの関わり方があっていいと思う。